

B型肝炎メーカー等ヒアリング状況調査結果

1 テルモ株式会社

(概要)

- ・ 日本の医療器材のリーディングカンパニー。
- ・ 昭和 38 年に日本で初めて使いきりの注射筒を販売。
- ・ 90 年の歴史の中で培ったユニークで輝く技術を活用しながら、今後も「人にやさしい医療」をめざしている。
- ・ 1921 年設立。資本金 387 億円 連結売上高 3,867 億円 (2012 年 3 月期)

- ・ 研究班からテルモへ調査への協力を依頼したところ、以下のような状況であった。
- ・ テルモ社史には、ディスポーザブルの注射器を開発・販売した時期の状況が記述されており、該当部分についての情報提供を受けた。
- ・ さらに、ホスピタルカンパニー（基盤医療器）部門が中心となって、関連部門（生産工場、広報等）に過去の情報にあたっていただいたが、注射器・注射針に関する昭和 40 年代、50 年代当時の情報は残っていなかった。
- ・ また、最初にシリンジを生産開始した工場（静岡県富士宮市）で、過去の情報がなにか確認していただいたが、社史に記載されている以上の当時の状況がわかる資料は残っていないとの結論であった。

2 日本医療器材工業会

(概要)

- ・ 医療機器業界として、医療機器の特性を踏まえた制度改正の実現と新成長戦略の工程表の具現化など、官民一体となった取組みを通じた国際競争力の強化を行う団体。
- ・ 現在の日本医療器材工業会会長はテルモ会長が就任。

ホームページより引用

- ・ 研究班から日本医療器材工業会事務局へ調査協力をお願いをしたところ、以下のような状況であった。
 - ディスポーザブル製品に関しては、「医療用プラスチック懇談会」（日本医療器材工業会の前身）という形で昭和 42 年に検討会が発足した。
 - 設立当時の懇談会は 17 社で発足した。懇談会設立当時のことを知る方は現在、

職を辞されているため聞き取りは困難である。

- 平成 12 年には日本医療器材協会と日本人工臓器工業協会が合併した。
-
- 個別の製品情報は持ち合わせていない。

(補) テルモ社史に基づくディスポーザブル注射器の普及状況

- (昭和 37 年 厚生省よりプラスチック製のディスポーザブル注射筒が承認)
- 昭和 38 年 1 月にディスポーザブル注射筒が、昭和 39 年 1 月にはプラスチック製のディスポーザブル注射針の販売が開始されている。
- 販売当初は、品質面よりも、「使い捨てはもったいない」という心理的抵抗感等もあり、ディスポ注射器は販売開始当初はなかなか普及しなかった。
- その後、事故・災害時など消毒設備がなく緊急を要するような場合の使用を通じてディスポーザブル製品に対する認識が向上したこともあり、昭和 44、45 年ごろから大病院で採用されるようになり、国内に普及し始めた。
- 一度使うとその良さを体験できるため、大学病院などで一部はディスポ製品を持っておこうとする機運が起こった。

以上